

9.29

# 反大学戦線形

## 成・連・集・会

豊島公会堂(津袋駅東口下車) PM 5:30から

全ての同志諸君へ

日大・東大を頂戴とする60年代後期の全国学園闘争の中で、70年代日帝管理体制打壊に向けた闘いを、大学の根底的破壊・解体を基軸とする反大学運動として、我々は担ってきた。そして、大学・学内批判を学内的に全面展開する全学自主ゼミ活動を踏まえつつ、大学・学内を根底的に否定しうる主体へと、自己を止揚していくことが現在の要請されている。

近代合理主義路線の全面的展開を自己の唯一の延命政策として登場させてきた帝国主義政府オルジョアジーは、大学立法、教育「公務員」特例法及び学校教育法の一部改正、をもちて大学を頂戴とする教育秩序再編を目的とし、帝国主義イデオロギーとしての排外主義⇒愛国主義を、侵略・抑圧反革命の為の法的布石の一つであるところの入管法・外国人学校去上理を根拠として人民内部に貫徹しつつ、これらに管理支配体制の近代合理化政策の中に包摂されてきた。

この時、反大学運動は、かかる日帝の70年代管理支配合理化⇒超管理体制を打壊してゆく運動の形成をめざして、根拠である大学の根底的破壊―解体の運動が要請されていることを、今、まさに確認していかねばならない。このことは単に大学内に限られることではなく、日帝の管理体制の一切の環に対して掘起されるのでなくてはならない。すなわち、反大学戦線の形成・連帯は、それを直撃する学生大衆のみによって私物化されるのではなく、管理支配体制の粉碎―地域共同行動の粉碎を前提したところの労・学提携の質・地区共闘、管理労働者共闘・共闘共闘の形成―展開を経ずにはなし得ないのである。

全ての同志諸君へ

我々は、反大学戦線の形成・連帯を、全共闘運動・反戦運動を担ってきた全てのスロレタリアート・人民の共有財産とすべく、ここに 大学解体路線の確認を呼びかける。

我々は自己の存在基盤を根柢から問い返し批判してゆく中で、それを粉碎・破壊の対象としてとらえ、実践的に貫徹しうる主体・運動の形成を呼びかける。

我々は、自己の全生活過程において、権力・体制との対決が自覚的に生成されるような空間の、少しの拡大をも、反大学戦線の実質の内容とみなす。

我々は、かつて全共闘運動が、その運動過程で示した以上の量・質を持って、自らが支配・管理するバリケード空間の獲得を全面的に展開する準備を呼びかける。

我々は、バリケード空間＝闘争空間の全面展開こそが、革命の現実性を予測しうる唯一の構造であることを明確に位置づけておくと同時に、目的意識化された解放空間の獲得を、全ゆる専断・状況において貫徹してゆかねばならない。

全共闘運動・反戦運動を担い、かつ世間とする全ての同志諸君へ

我々は諸君の自立した闘いが、反大学戦線の中に明確に位置づくものとして考え、ここにその形成・連帯を呼びかける。

——スロロガン——

- ☐ 大学解体＝日帝管理体制打壊に向けて、反大学戦線の確立を
- ☐ 日帝管理支配イデオロギー＝近代合理民主主義を粉碎し、自立した闘いへ
- ☐ 秋期政治・経済・文化・社会領域における闘いと、革命主体形成へと展開せよ

——基 調——  
反大学センター全都助手共闘管理労働者共闘  
——戦 士——

法大・早大・慶大・日大各反大学。明大・愛工大全学自主ゼミ。教育共闘/選挙共闘、水産共闘、地理共闘、理工共闘、サークル共闘、院生共闘、二部共闘、助手共闘、反戦派労働者。

### 主催：反大学センター・全都助手共闘